

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事務所内に掲げ、入居案内にも掲載している。管理者は朝礼時において必ず出席者と唱和を行い、職員への浸透を図っている	管理者、職員は理念を共有し意識づけている。独自の理念を唱和し、日々利用者に関わる際も意識して取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍のため、祭り等地域行事ができていないが、出勤と退社時散歩の際には必ず挨拶をして、地域の方とコミュニケーションを図っている	地域との交流は大切なことであり、日頃住民と交流を持っているが、コロナ禍の為、行事などができない状態である。これからも地域と連携を図り、地域活動や人々との関わりを大切にして取り組んでいきたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍であるが、機会があれば認知症の人の理解や支援の方法を地域に発信していく心構えです。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍であり、施設職員のみで開催となっている。他の役員の方には書面での報告となっている。報告内容に対して意見を頂いており、日々の運営に活かしている。	コロナ禍の為、会議は施設職員のみで行われている。他の役員には会議の様子を書面でお知らせし意見を頂いている。サービス向上の為、意見を活かしている。外部評価も思ったようにできず困っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	業務運営などについて、市に積極的に相談し助言や指示を頂いたり、また、市町村担当者から研修会開催の案内をして頂く等の協力を得られるようにしている。	市とは、運営やサービスの相談など問題解決に向け協力を得ている。研修会の開催など情報を共有し、連携を深めていきたいと考えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	危険回避、安全確保の為に実施しようとする行為が身体拘束に当てはまらないか、職員間で話し合いながら取り組んでいる。	身体拘束について、安全の確保や危険防止の為に実施しようとする行為に対し職員で話し合いが行われている。利用者にとって安全を確保しつつ自由な暮らしの大切さの徹底理解を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底	職員全体ミーティング時において、虐待に関		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	連することをテーマに挙げて話し合う機会を設けている。また、「虐待防止係」が常に入居者やヘルパーの動向に注意を向けて、虐待防止に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内で周知し、必要のあるご利用者に対しては鴨川市役所、社会福祉協議会へ相談できるように連携、支援できるように体制を整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約時には必ず2名の職員で立ち会い、口頭と文書にて説明を行っている。説明の途中で質問等がないか随時確認をしながら、利用者や家族に理解・納得をしていただけるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃からの対話やコミュニケーションを大切にし、意見しやすいような関係作りを心掛けている。意見や要望を伺い、運営に反映させるように努めている。	利用者、家族とは話しやすい関係づくりが行われている。家族アンケート調査、会議などで意見や要望を伝える事ができる。何でも活かせる雰囲気づくりを大切にし意見は運営に活かしたいと考えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の職員全体会議で職員より意見や提案がないか確認している。一人ひとりの考えをとりいれ、可能なことから業務改善に取り組むようにしている。	全体会議を行い、運営や管理について職員から意見を頂く。一人ひとりの意見を頂く。一人ひとりの意見は大切であり、働く意欲の向上や内部、外部の意見を行い質の確保に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自発的且つ能動的な就業意識を抱けるような職場環境づくりを目指している。勤務状況を把握するとともに、事業所内の行事や会議、内外の研修会の出席意欲等を確認して給与の支給額に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍の為、回数は減っているが、外部から講師を招いて勉強会を開いたり、また、一人ひとりのレベルにあった研修を設定し、勤務調整を行って受講する機会を設け、個別のスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為、定期的には集まることはないが、何かあれば相談・情報交換をして事業所内に取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前事前に入院先の病院や自宅を訪問し、本人・家族と面談して、本人の不安や要望を聴くようにしている。可能であれば本人にも施設へ訪問していただくように努めている。(コロナ禍の為、施設内の見学は行っていない。)		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談時に不安や要望等を聴くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その段階で必要と思われる福祉用具等の洗濯を介護ショップの担当者へ相談したり、遠方で暮らす家族に代わって定期受診の付き添い介助を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の興味のあることやできることを把握し、共に実践することで良い関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の現状を家族へ随時報告している。本人の希望時には自宅へ電話をして家族の声を聞いて安心していただいたり、家族からご本人に電話をしていただいたり、家族の理解と協力を得ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為、今までのように自由に面会・外出等は行っていないが、事務所出入り口でのガラス越しでの面会としている。	コロナ禍で自由に人との関わりができないが、最小限度の交流ができるよう心がけている。ガラス越しから面会ができる。家族も利用者同士の関係が円滑になるように働きかけ支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性を把握し、席順等に配慮し、リビングでは話しやすい雰囲気作りを心掛けている。食事やおやつ時には利用者間で誘いあったり、事故のないように見守りをし、関係性を大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても家族とは地域住民としての関わり等で関係を継続できるようにしている。また、退去の事務手続きの際には、今後も必要時にはいつでも相談に応じる旨伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の入院先の病院や自宅へ訪問して、本人・家族との面談により情報収集して、希望や意欲の把握に努めている。朝・夕のバイタル測定時や入浴時等に個別に会話する時間を大切に一人ひとりの思いの把握に努めている。	利用者が自分らしく生きる為に、入居前の様子を家族や関係者から、情報や生活歴、健康状態などを把握し、どのように暮らす事が最良か検討をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の家族との面談や、それまでの担当のケアマネやワーカーから生活歴や生活環境等の状況を聞いて、その把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の身体の状態については、朝・夕と一日2回のバイタル測定値を基準にして把握するようにしている。また責任担当制を導入し、担当者が個別に心身機能の状態変化に留意し、一人ひとりの状況の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	管理者・ケアマネ・計画作成者、担当者、本人・家族・訪問看護・福祉用具専門員等、多職種での連携に心掛け介護計画書を作成、定期的にモニタリングを実施している。	本人、家族の要望を管理者、ケアマネジャーなどと話し合い介護計画を作成している。変化が見られた場合はモニタリング・カンファレンスを行い計画の見直しを行っている。チームと連携を図り計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアの内容を一人ひとり個別に記録し、業務の引き継ぎ時の申し送りを通して職員間で情報を共有している。そして変化があった際にはケースカンファレンスを行い、その後のケアの内容に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍にあっても窓越しの様子見学など柔軟な支援やサービスの多機能化に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとり身体機能のレベルに合わせた手段でホームより1～2分である太海海岸まで散歩している。散歩中に近所の方と挨拶を交わすことで近所の方に現状を理解していただくことができている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要時、本人・家族の希望を確認後に協力医療機関の専門医やかかりつけ医に相談して指示を仰いだり、職員が家族の代わりに受診に同行している。また、市立病院の訪問看護や訪問診療を定期定期に受けて、健康管理も行っている。	協力医療機関と24時間体制で訪問診療、月2回の訪問看護を実施している。一人ひとりの健康状態を把握し、様子の変化は記録に残し、看護師に報告し適切な医療を受けられるように支援に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中でとらえた精神面や身体機能の変化を普段から記録に残して訪問看護時に看護師に報告・相談している。そしてその後のケアの方法や受診の必要性の有無の判断を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際にはホームでの普段の生活状況を情報提供したり、入院中の状況をワーカーに確認し、現状把握に努めるようにしている。近隣の医療機関の医師や看護師、ワーカーとは普段から気軽に相談できる関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化する前に日々の観察から本人の異変に気づき、家族へ報告・説明してから、連携医療機関や訪問看護師へ相談して指示を仰ぎ、受診するようにしている。また、終末期を迎える前に主治医の方針を確認し、連携医療機関のバックアップをいただきながら、本人・家族の意向に沿うようにしている。	重度化する前に、本人、家族、医療機関と連携し指示を仰いでいる。安心と納得が得られるように日々の様子を確認し、連携を図り体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	誤嚥・窒息・急変時に備えて看護師よりレクチャーを受けたり、リスクの高い利用者に対しては職員全体で注意を払うことができるように体制を整えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルを整備し災害時に備えて定期的に避難訓練を実施したり、管理者サイドのミーティング時にはその都度災害時の対応について話し合っている。また、近所の方との普段からの関係性を大切にしている。	定期的に避難訓練を実施している。管理者とミーティングを行い、災害対策についての話し合いが行われている。地域住民との関係性を大切に、いざという時は協力体制がとれるようにと考えている。避難通路を設置し、安心して避難できるように心掛けている。	避難訓練の実施を強化し、何があっても良いように普段から備えておく必要がある。利用者を誘導できるよう心掛けて欲しい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者と同一目線に合わせて会話をすることを方針とし、それが実践できているのか、行き届かない対応が見られた場合はその都度管理者が注意し、一人ひとりを尊敬しそれにふさわしい対応を心掛けるように指導している。	利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りを傷つけない行動、馴れ合いの中での行動、管理者は職員の教育に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段から本人が自身の思いや希望を気軽に話せるような雰囲気を中心している。物事を進める際には、まず本人へどうしたいか問いかけてから始めるようにしているが、自己決定ができない方に対しては必ず本人に説明してから支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけ一人ひとりのペースや好みを大切にすることを心掛けている。本人の意志を確認しながら、そのひその日程を職員がたてて、本人に説明してから取り組むようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性の利用者には身だしなみを整えたり、洋服を自分で選ぶように、男性の利用者には、自身の電気カミソリで髭を剃るように働きかけている。また、離床して利用者同士が顔合わせする食堂等に移動する前に身だしなみに配慮するようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を作る際には好みを聞いて、できるだけ要望に応えるようにしている。食事の配膳や後片付けは、可能な方は職員と一緒にやっている。旬の食材を使って料理したり、各季節の行事に合わせたメニューを提供している。	食材は季節に取れた旬の食材を使用している。利用者の好みに合わせた献立が作られている。食事は手作りで手間かけた季節の食事が提供されている。行事に合わせた食事形態も体調や身体状況に合わせて提供されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事摂取量と水分量はその都度把握し記録に残し、摂取状況に合わせて補うように支援している。食事形態も体調や身体状況に合わせて無理なく摂取できるように、ミキサー食、粥食、刻み食等調整して提供している。入居前の面談時に本人・家族より好き嫌いをヒアリングしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ほとんどの利用者が毎食後の歯磨きを自主的にまたは一部解除、全介助によって行っている。また、義歯を利用している利用者については、職員が夕食後に洗浄剤を使用して洗浄している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄をこまめに記録して排泄パターンや尿意を把握できるように努めている。自主的にトイレに行かれない利用者は、一定の間隔で時間誘導している。車椅子使用の立位保持が困難な利用者については日中2人介助にてトイレで排泄するように支援している。	自立に向け支援を行っている。声掛けや誘導を行い、排泄が出来るよう支援に努めている。車椅子の利用者には2人介助で支援する。個々の排泄の様子は記録に残し把握ができるように心がけている。水分補給や食物繊維、乳製品を接種するように心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃から水分を多めに摂取するよう声掛けしたり、食物繊維の多い食物や乳製品を食材に選んで調理している。便秘の方については、主治医より指示を仰いでいる頓用の下剤を投与して排便コントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の嫌いな利用者でも週2回は入浴していただき、なるべく本人の好きな時に入浴できるように心掛けている。	入浴は週2回、好みに合わせた入浴に心掛けている。嫌いな利用者も週2回は入浴している。清潔保持、体調の改善、安眠など入浴で気分も良くなるよう支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	共有スペースの照明については、誰もいなくなったことを確認してから消灯するようにし、各居室の照明については、一人ひとりの習慣に合わせて調整するようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬・投薬忘れを防止するため、必ず2名の職員で投薬のチェックをする等、事故防止に努めている。一人ひとりの内服薬の内容の把握に努め、症状に変化があった際には主治医へ報告し指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物を置んだり、排泄物を入れる新聞紙を折ること、花が好きな利用者に花瓶に花を活着て頂いたり日々の生活に張り合いを持って頂けるように支援している。また、季節ごとの行事や旬の食材を使った季節料理を食べていただき季節を感じて頂く等、ホームの生活を楽しんでいただけるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の天候や身体状況を見ながら、短時間の散歩を実施するように心掛けている。コロナ禍の為、買い物やドライブには行けていないがコロナ沈下の折には行く予定。	コロナ禍の為、短時間の散歩を行っている。施設の周りには季節の花が咲き気分もいい。外出ができるようになれば地域に出かけ人との交流ができるのを楽しみにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は原則事務所管理としているが、本人・家族より普段からお金を所持することの強い希望がある入居者については、家族側と施設側双方の同意の下、小銭のみの所持を許可している。必要時は職員が代行で買い物支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話は、必ず本人が話せるようにつなげている。また、本人が電話をかけたいと言われる時も家族の都合に配慮しながら、なるべく本人の希望に沿うように対応している。手紙についても本人・家族間で確実にやりとりができるように仲介している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中過ごされることが多い場となっているホール・食堂等はこまめに清掃して清潔にすることを心掛けている。また、ホールなどには、季節感を感じさせる装飾を施すなどの工夫をしている。匂いについても換気をしたり、芳香剤やアロマオイルを使用し不快感のないように気を配っている。	共用空間では、行事の節分や雛祭り等が行われている。皆でゲームや折り紙等行い楽しいひと時を過ごしている場所になっている。食堂は清潔を保ち、清掃を行う。換気にも気を配っている。ソファで寛いだり、季節感や生活感を感じさせる居心地の良い場所になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには一人掛け用の椅子と二人掛け・三人掛け用のソファを置いて自由に座って頂けるように配慮している。また、大型テレビを設置して、利用者同士で好きな番組をみて過ごしやすい空間づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具等は、すべて本人や家族が用意した物を希望に応じて置いている。入居前の事前の説明時においては、今まで自宅で使用されていた馴染みの物をできるだけ持ち込まれるよう家族に伝えている。	居室は本人・家族が用意した物を使い慣れた家具を使用している。自宅との違いによる不安をなくす為、馴染みの物を持ち込んでいる。その人らしく居心地の良い居室作りに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体レベルを考慮した家具の配置やベッド選定を行い、本人の能力をなるべく活かせるように配慮している。また、廊下やトイレ・浴室に手すりや安全パーを設置したり、張り紙でトイレの場所等が認識できるように示すなどして、利用者が自立して生活できる環境作りに努めている。		